



アンサンブル



2024.10.29
No. 14

あいさつは魔法の言葉



あいさつは世界共通の行動であるようです。日本ではお辞儀が一般的ですが、外国では、手を合わせたり、鼻を使ってあいさつをしたりする国があるようです。

昔は、あいさつを「言葉がけ」と言い、人と外で出会ったりすれ違ったりした時には、言葉をかけるのが一般的な礼儀でした。鎌倉時代の武家家訓には、「誰であれ目にした人に対しては礼儀としてあいさつをすべき」と書かれているようです。

あいさつに関して、こんなお話があります。

浅草の東洋劇場に出演していた芸人がいました。なかなか売れないので、演出家が「芸人としての才能がないから辞めさせよう」と言って、この芸人を東洋劇場から追い出そうとしました。それを聞いた周りの人から、「彼のあいさつは快い！辞めさせないで！」と青年を援護し助けようという声が上がりました。その結果、彼はクビになることなく仕事を続けることができました。

このお話は、コメディアンのスーパースター、萩本欽一（欽ちゃん）氏の修業時代の実話です。あいさつが、人生を変えることもあるのです。

あいさつには、「暗い気持ちを吹き飛ばし、気持ちを前向きにする力」「人間関係をよくし、友達を増やす力」などがあり、このお話のように「人生を変える力」もあります。

あいさつは「相手を大切に思っている」ことを伝え、人を元気づけたり優しい気持ちにさせたりする魔法の言葉で、ものすごい力を持っていると思います。

あいさつは、何の準備もいりません。そして、思い立ったらすぐに始めることができます。ぜひ、三宅小学校を、あいさつの声でいっぱいにしてほしいと願っています。



10月17日

ウルド君が朝のあいさつに来てくれました。

